

会 議 録

会議の名称	令和4年度第3回坂戸市環境審議会
開催日時	令和5年2月3日（金） 10時00分～11時55分
開催場所	坂戸市役所 303・304会議室
会長の氏名	井元 りえ
出席者（委員）の氏名・出席者数	井元 りえ、板井 孝子、太田 諤、中里 和子、房野 洋、小室 行夫、古園 瑞輝、萩原 章、細田 千恵、堀口 郁子 【10名】
欠席者（委員）の氏名・出席者数	真野 博、宍戸 智行 【2名】
傍聴者数	1名
事務局職員の職・氏名	環境産業部長 石坂 知巳 環境産業部次長 浅野 保 環境政策課長 問々田 征典 廃棄物対策課長 上 政雄 環境政策課長補佐 尾澤 裕昭 環境政策課長補佐 廣澤 隆夫 環境政策課企画調整係長 辻 里佳 環境政策課企画調整係主任 齋藤 直樹 知識経営研究所 緒方 奈央子 知識経営研究所 中谷 祐貴子
会議次第	※ 委嘱状交付 1 開 会 齋藤主任 2 挨拶 井元会長 3 議 事 （1）第3次坂戸市環境基本計画骨子案について ・ 計画の全体構成について ・ 目指すべき環境像について ・ 計画の体系について （2）重点プロジェクトについて 4 その他 今後のスケジュールについて
配布資料	〈事前配布〉 ・ 令和4年度第3回坂戸市環境審議会次第 ・ 資料 第3次坂戸市環境基本計画策定骨子案 ・ 資料 目指すべき環境像について ・ 資料 重点プロジェクト（案）について

議 事 の 経 過

発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局	本日の審議会は公開となっております。現在1名の傍聴希望者がいらっしゃいますので、入室していただきます。
会長	（挨拶）
会長	議事に入らせていただきます。 「（1）第3次坂戸市環境基本計画骨子案について」を議題とします。事務局から説明をお願いします。
事務局	（骨子案より、計画の全体構成について事務局説明。）

会長	ただいまの説明についてご意見・ご質問等ありますか。
委員	量が多すぎて、何からどう手を付けてよいかわからない。 ボリュームを絞って、項目別に議論してはどうか。
会長	まずは、2～6頁についてご意見を伺いたい。 私から1点、6頁の計画の推進主体について、相互に協力し合えるような言葉が入るとよいのではないかと。市民が受け身になっているので、市民が要望を言えるなど、相互に関わり合って進めていくような表現がよいのではないかと。
委員	市民がどこまで理解して行動できるかわからない。方向性が決まらないと、提言もできないだろう。
会長	市民のところに、「市の施策に協力する」とあるが、市民から提案すると入れてもよいのではないかと。もちろん市民を代表してこの環境審議会で見解を述べているが、より多くの市民の皆さんから意見が出ている状況もあるし、それがもっと活発になるような意味も込めて、加えてはどうか。
委員	坂戸市の計画は前回や今回も細かく、落ちなくよくまとめてあると思う。最初の方では基本的なことが書かれていると認識しているが、すでに出たおふたりの意見もごもっともだと思う。基本的な部分は必要最小限で、市民に向けた内容は市民目線でわかりやすさを重視してほしい。
事務局	推進主体について、ご意見を踏まえ、相互に協力するような言葉を入れる方向で検討する。市民、事業者にやっていただきたい事項については、施策のなかで広げていければと思う。
会長	10頁の「グラスゴー気候合意」の説明について、COP開催と1.5℃目標をもう少し補足して頂ければと思う。言葉が省かれていて意味が異なっているため、世界平均気温の上昇を産業革命以前に比べて1.5℃以内に抑えるという目標を目指すことを、入れてほしい。 世界、国、埼玉県で動向をうまくまとめられているのではないかと。 12頁のSDGsについて、17の目標が横と縦で並んでいるのはどちらが見やすいか。
委員	マークは見たことあるが目標の内容を事細かに理解している人は少ないと思うので、説明は必要と思う。あとは見せ方なので、いろいろな資料を参考にしながら、見やすいものをもってきてほしい。
委員	わかりにくいし、細かく理解していない人も多いと思う。坂戸は市民憲章があったので絡めて説明するとわかりやすいのではないかと。SDGsを当てはめたものはないのか。SDGsの羅列だけではわからないのではないかと。
事務局	市民憲章との関係の前に、32頁の施策の体系で5つの基本目標を設定し、それに関連するSDGsの分野を示させて頂いている。この表でマークだけだとわからないため、その前段として12頁で簡単に説明することとした。 詳しく載せた方がいいのか、簡単にこういうものだという概念の紹介に留めるか、検討する。
委員	SDGsのマークが同系色で見にくい。
会長	色は決まっていることなので変更はできない。
事務局	現時点で見えづらい部分もあると思うが、最終的な製本では、はっきりしたものとなるようにする。 また、先ほど市民憲章についてご意見があったが、現在、坂戸市の最上位計画となる総合計画においてもSDGsがどの部分に関係しているなど示させて頂くことになる。
委員	12頁のSDGsの説明について、これまでは環境活動で環境負荷を減らす部分で企業の利益と相反する部分だったが、こういった概念をもって環境課題と経済・社会課題の解決が図られると認識しているので、「特徴を持っています。」ではなく、目指すことが求められているという表現になるとよいのではないかと。ここにSDGsの文章まで含めて入れるのか、用語集の方で対応するのか、検討して頂ければと思う。

委員	15頁のTJ（テラジュール）という単位はどういう意味か。
委員	テラは規模。キロやメガと同じで、テラはメガの1000倍。
事務局	ジュールは熱量単位。テラは10の12乗。ご指摘のとおりわかりにくいので、補足するか、用語集で補足する。
委員	2030年、2050年、1.5℃目指すなど数字が出てくるが、市民や世間にはピンとこないのが、緊迫感がない。市民に向けた計画骨子案となっているが、非常にわかりにくいので、わかりやすいものにしないとイケない。市民にわからせるのに何年かかるのか心配だ。
委員	2011年から2019年まで緩やかな下降になっている。エネルギー消費量が下がっているのは、坂戸市の経済活動が低下しているという意味か。前のページでは人口が減少しているの、そういったことが関連していると捉えてよいか。
委員	坂戸市の分析はしていないが、一般的に人口が減ればもちろんエネルギー消費量が減ること、1世帯当たりのエネルギー消費量は年々減ってきている。省エネ機器が普及していたり、古いものが交換されエネルギー効率が上がってきている。また、世帯当たりの人員も減ってきていることもあり、そのようなことも要因があるかと思う。
委員	14頁2-1-4交通について、生越線と表記が間違っているので修正が必要。
委員	13頁2-1-1人口について、高齢化が進んで、70歳以上が多く、10年後には世帯数が減ってしまう。傾向はどのように把握しているのか。将来的に高齢化で急に下がる可能性はあると思うが、見通しはどうか。
事務局	環境基本計画ということなので、ここでは実態の数値に留めているが、将来の人口推計については、総合政策部が出している将来人口推計がある。そのなかで出生数の減少などの影響で人口が減ってきている部分について、どうやって食い止めていくかの検討をしている。環境基本計画上では、将来推計の提示は難しいが、別分野で今後の人口の動向については示している。
会長	21頁の最終行「取組む」の「り」は入れた方がよいのではないかと。動詞のため。
委員	公文書には「り」を入れないという認識。使われ方はさまざまなので、公共性等鑑みて、入れるか入れないか事務局にお任せした方がよいのではないかと。
委員	22頁の水環境・水資源に関連して、台風19号以降、河川敷の伐採が進んでおり、ずいぶん見通しがよくなった。そのぶん、川の流が強くなったように感じ、生物多様性の面でも心配している。下流域は不安に思うのではないかと。あそこまで河川敷をきれいにしていかがなものか。国土交通省の管轄とは思いますが、すごい気になる。
事務局	国が対応しているところではあるが、台風19号を受けて、改めて問題点を検証している。その結果、堤防内の樹木が邪魔になっていたり、河川の砂利の堆積が容量を圧迫していたことから、保水力の確保のために対応していると聞いている。
委員	水循環の面では、木を伐採して堤防にするのは、逆効果になっているように感じる。生態系への影響があるのではないかと。思う。
会長	32頁について、SDGsの17番パートナーシップについては、すべてに関わるので、1～4にも入れてはどうか。2循環型社会については、SDGs12番を入れた方がいい。3には14番の海だけでなく、15番陸の豊かさを入れた方がいい。4には適応策が入っているので13番を入れてもいいと思った。5環境教育については、多くの目標が含まれると思うので、13,14,15,6,なども入れていいのかなと思った。
事務局	関連するSDGsの足りない部分については、今後、SDGsの専門である会長にも相談しながら修正させていただきたい。
委員	27頁の脱炭素社会について、再生可能エネルギーのみでなくエネルギー消費量削減の取組の一層の拡充について賛同する。こちらと33頁の方向性との整合性が、微妙に異なる部分がある。27頁の表現を見ると省エネ行動の啓発をイメージするが、「省エネルギー対策の徹底」だと省エネ機器の導入・促進も含まれるのかなという印象があるので、そういった趣旨も含めた表現の方がよいのではないかと。

	脱炭素型のまちづくりについては、なかなかこれだけではイメージが付きにくいと思うので、具体例や何か絵でもないのかなと思っている。
事務局	27頁の課題と33頁の施策の方向性について、もう少し整合を図って表記していく。脱炭素型まちづくりについては、基本施策のほうで具体的に示していきたい。
委員	27頁③プラスチックごみの削減・循環経済への移行とある。このプラスチックについて原料になるものと原料にならないものがあると見たことがある。全部が原料になって再利用できるのかなと思うのだが、その差とはどのようなものか。
事務局	プラスチックのリサイクルについて、坂戸市の場合は容器包装プラスチックをリサイクルしている。市民の方に分別頂き、さらに市の方で選別したうえで、容器包装リサイクル協会に引き渡している。協会から再生事業者へ委託し有償で再生をしてもらうという流れ。再生方法は、原料もしくは石油に替わる燃料にするばあいもあれば、ケミカルリサイクル（さらに違う物質にする）などがあり、どのように再生するかは、ごみの汚れ具合が関係してくるようだ。きれいであれば、比較的経費が掛からずリサイクルできるが、汚れがひどいと、ペレット状の燃料などになることが多いと聞いている。 容器包装プラスチックは家庭で分別収集している。再生方法は、決められない。
委員	プラスチックの法律ができてから、どのようになるのか。プラスチックは便利であるが、プラスチックが何割位リサイクルされているのか、何か変わって来たのか質問してみた。先ほどの説明のように、汚く出すと燃料にされるなど、その辺りがわかっている市民はどれくらいいるのだろうか。リサイクル率を上げるような啓発、情報発信をしていくべきだと思う。
会長	プラスチックをよりリサイクルに向けるために、より市民にPRするようにしていくことが重要と感じた。
事務局	(骨子案「目指すべき環境像」及び、資料「第3次坂戸市環境基本計画における目指すべき環境像(案)について」説明。)
会長	事務局より3つの案を提示いただいた。これについてご意見・ご質問等ありますか。
委員	①について、清流とみどりを「育み」とあるが、自然が人を「育む」ものなので、「育まれ」が適当と思う。「つなぐ」が何をつなぐのかよくわからないので、「ともに未来へすすむまち」といった表現はどうか。「みどり」「すすむ」という言葉などは、漢字表記か、ひらがな表記かでイメージが変わると思う。ひらがなは今風で、やさしいイメージがあり、漢字は見た目が簡潔で明瞭となる。どちらがいいのかは読み手の好みかと思う。みどりは骨子案のなかではひらがなで出てくるので、ひらがなでいいと思う。 ②について、「安心して住み続けられる」は具体的な表現と思うが、スローガ的な表現であれば、「人と自然が調和した ともに未来へすすむまち さかど」のような感じになると思う。 ③について、文の流れを重視してみると「みんなで創る ひとと自然が調和したまち さかど」がよいのかなと思う。 文章によって人が受ける感じは変わると思うが、読み手の好みもあるのでなかなかどうこう言いにくい部分もある。1次、2次の環境基本計画との基本は変わらないと思うので、キャッチコピーを変えて気分替えが目的なのかなと思っている。個人的には、明快なものがよいと思う。
会長	ご意見を踏まえて、事務局で検討して頂きたい。
事務局	(骨子案「計画の体系」について説明。)
会長	33頁の方向性については、27頁との整合をとるというご意見をいただいた。
委員	「努めます」の表記について、今後5、10年の方向性を示すものなので、意図があるのであればよいが、積極性のある表記へ検討を頂きたい。
事務局	表記については、「推進します」といった表記がよいかと思うので、改めて検討する。

委員	個人的には、ぜひ「推進します」にしてほしい。
会長	ご意見を踏まえ、検討いただきたい。
事務局	(資料「重点プロジェクト(案)について」について説明。)
委員	3食品ロスについて、学校・保育園・福祉施設となっているが、「家庭」が抜けている。フードバンクなどの取組もあるので、食品ロスには市民全体で取組むものだと思う。「一般家庭」も仲間に入れた方がよいのではないかな。
事務局	施設にこだわるのではなく、市民全体で取り組めるような施策となるよう庁内所管課で組織するプロジェクトチームで検討を進めたい。
委員	4市民参加型生物多様性調査事業について、こういった調査や基礎資料の作成については、近隣市より遅れていると日頃感じている。学校、市民、ボランティアの参加の形について、現段階で考えがあるか。
事務局	具体的に確定しているわけではないが、今後プロジェクトチームで検討していく。例えば、学校の授業等を通じて新たな発見等があった場合は、情報カードで収集したり、市民の方からの発見を報告してもらえる工夫をしていけたらどうかと考えている。
委員	そういったことをシステム化していくようなイメージか。
事務局	システム化が可能かも含めて、検討する。
委員	前回資料では、坂戸市内の希少種が環境省の14種だったように思う。今回の資料では、19頁の記載で具体的な植物名等があると思うが、データ出典は環境学館いずみ等の資料を調べてよいか。
事務局	環境学館いずみの観察会で確認できたものや環境省、埼玉県レッドデータブックなどのデータを使っている。
委員	環境省レッドデータブックでは、全国的に希少なものが対象となるが、埼玉県レッドデータブックであれば、埼玉県内でどれだけ貴重であるかといったカテゴリーとなる。個人的に把握している城山には、植物494種、きのこ136種、そのうち41種は埼玉県レッドデータブックに載っている危惧種あるいは準危惧種にあたる。動物全体では昆虫・クモが447種、その他の動物は63種、そのうち動物全体で60種が埼玉県レッドデータ上の危惧種あるいは準危惧種にあたり、全部で、100種が生息している。全国で14種というのではなく、埼玉県にとって貴重な種が100種は生息しているということを市民の方に知っていただきたい。 希少性だけでなく、城山に諸問題が起きている。坂戸市内唯一の山で、希少種の生息地としても宝物である。重要性を認識し、どのように守っていくのか、今度の環境基本計画に盛り込んでいって欲しい。 サワギキョウは埼玉では坂戸にしかない。気候変動により、去年8月から姿が見えなくなっている。ベニスズランは坂戸城山で数株しかない。なぜ城山には希少種生息の密度が高いか、東京学芸大学の教授に視察いただき、評価も頂いている。文章をまとめたので、今後の参考にしていただきたい。 坂戸の希少な場所があることがわかるような表現にしてほしい。
事務局	表記の内容については、どこまで記載できるか含め、検討させてほしい。
委員	重点プロジェクトが、第3次環境基本計画に具体的に活かされてくる、これから施策をつくるということと認識した。魅力あるまちさかどにしたいのであれば、環境も外せないと思うので推進して頂きたい。現在、坂戸市ではLEDの照明器具への補助金を独自に打ち出している。こういった施策を計画に落とし込み、ワクワクするようなプランを作ってほしい。 例えば、東京都では住宅への太陽光発電設置の義務付けした。国・県に頼らず、市が先行して魅力あるものを打ち出してほしい。電気自動車は今後主力になると思うので、電源口を必ず付けこれに補助を出せば、坂戸に家を作ろうかなと思う人も出てくるのではないかな。
委員	1省エネ・再エネ推進事業について賛同する。情報提供だが、2050年を目途に

	<p>エネルギー事業者としては、供給しているエネルギーそのものを脱炭素化していこうと取組んでいる。メタネーションのような、都市ガスの主原料であるメタンを利用してCO₂を回収し、再生可能エネルギーで作った水素と掛け合わせて合成メタンをつくっていくといった技術開発・実証事業等を進めている。技術開発が確立するまでは、省エネや再エネの取組でできる限りの脱炭素化が必要と思う。2環境に配慮した行動促進事業について、学校教育やエコクッキングなど、どれくらい省エネになるか冊子をつくり、知ってもらおう活動を実施している。もう一つの、行動に起こしてもらうところにハードルを感じており、そこへのインセンティブについて、プロジェクトで考える必要があると思う。</p>
事務局	<p>(4その他について、事務局より連絡)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回の審議会開催について
会長	<p>(閉会の挨拶)</p>
事務局	<p>閉会</p>

以 上